

鈴木 りえこさん

最貧国が集中するアフリカで、貧困や飢餓にあえぐ人口の削減を目指すNPO法人ミレニアム・プロミス・ジャパン(東京)。その理事長として講演や寄付金集めに多忙な日々を送る。設立から約2年。賛同の輪は広がり、関西のNPO法人の協力で、近くアフリカ中部のウガンダに小学校を建設することになった。

「行く先々で、なぜアジアではなくアフリカ支援なのか聞かれます」
網走出身。アフリカにかかわるきっかけは44歳での結婚だった。相手は北岡伸一東大教授。2004年、夫が国連次席大使になり、「国連にかかわる仕事ができれば」と20年近く勤めた電通総研を辞め、ともに米国へ。夫の知人に、エイズ

やマラリアで多くの命が失われているアフリカへの支援の必要性を説かれた。自費で訪ねた南部マラウイでは、やせ細った子供が診療待ちの列をなしていた。マラリア防止に日本の蚊帳が役立っていることも知った。団体設立を決意し、知人に理事長就任を要請すると「資金集めに自信がない」などと断られ、自らその立場に就くことになった。

昨春から日本の大学院生ら7人を数カ月間ずつ、支援要員としてアフリカに派遣している。ニートや引きこもりの若者も連れて行きたい。「貧しくても生き生きとした姿を見てほしい」からだ。

東京都内で夫と2人暮らし。54歳。(稲塚寛子)

